

Coronews だごぼはん だよより

今月のことば

仏教はわかる教えでは

ありません

なるほどその通りと

うなづく教えです

今泉温資

親鸞聖人は主著である顕
眞実教行証文類しんじつぎょうしやうもんるいの中で
善導大師のお言葉を引用さ
れて仏教の学び方について
お示しくださっています。
一つには「解学げがく」これは
わかるようになることを目
的とした学び方です。経典
などを讀んだり理解する学
びであります。いわば私た
ちが思う勉強です。そして
もう一つ、仏教の学びとし
て「行学ぎやうがく」というあり方
です。日々の生活の中で仏教
を確かめ自分の生きる道を

あきらかにしていく学びの
ことです。この二つの学び
はこれがよくてこれはだめ
だというのでは決してあり
ません。知識を身につける
学び解学も大切です。ただ
この学びで終わってしまう
ことがもったいないことな
のです。次のステップがあ
るといふか、解学と共に行
学をしていくことが大事な
のです。解学で終わらせて
しまうことがもったいない
ことなのです。
そもそも仏教というのは

お釈迦様が私たちにされた
お説教が基です。その教え
に生きていくことが仏教で
す。他人ごととしてこんな
生き方があるんだと聞いて
いくのではなく、私ごとと
して自分の生き方として学
んでいくことが肝要なこと
でしょう。言い換えればお
釈迦様は何でこんなことを
おっしゃっておられたんだ
ろうかということをお私の人
生を振り返りながら確かめ
て行く事が大事な仏教の学
びなのでしよう。



修 嚴 会 經 堂 祠

日時 6月16日(日) ~ 17日(月)

いずれも午前9時30分より4時まで

16日のお昼には尼講によりオトキ(昼食)の接待があり

17日のお昼にはお寺でオトキをお出しさせていただきます。

お説教は富山市米田町専福寺 住職 星川了さんがされます

祠堂受付中

常入寺ではお寺の維持
を目的とした寄付を
祠堂といえます。身内
が亡くなられたことを
縁としてされることが
多いのです。いつすれば
よいのですかと聞かれ
ることがありますが、
寄付ですので、しなけ
ればいけないこともあ
りませんし、いつとい
うことも決まってい
ません。思い立ったと
きお寺にお持ちいた
ければよろしいです。
また金額も決まってい
ません。お気持ちをお入
れください。祠堂しよ
うというお気持ちがお
寺にとつてこの上ない
喜びですから。
常入寺では祠堂を頂
いた方々に祠堂のお勤
めを祠堂経会の初日に
まとめてさせていただきます。
いっています。今年の祠
堂経会の時にとおわれ
るのでしたら出来るだ
け早くお申し出くださ
いさい。準備の都合上、
祠堂経会の当日祠堂に
たいていもお勤めでき
ないこともございます
事ご了承ください。

同居されているかたがおられるのならば、できますれば皆さんでお読みください

御文をいただく 其の六十八 五帳目第九通④

当流の安心あんじんの一義といふは、ただ南無阿弥陀仏の六字のころなり。たとへば南無と帰命すれば、やがて阿弥陀仏のたすけたまへるころなるがゆゑに、「南無」の二字は帰命のころなり。「帰命」といふは、衆生の、もろもろの雑行をすてて、阿弥陀仏後生たすけたまへと一向にたのみたてまつるころなるべし。このゆゑに衆生をもらさず弥陀如来のよくしろしめして、たすけますますところなり。

これによりて、南無とたのむ衆生を阿弥陀仏のたすけますます道理なるがゆゑに、南無阿弥陀仏の六字のすがたは、すなはちわれら一切衆生の平等にたすかりつるすがたなりとしらるるなり。されば他力の信心をつるといふも、これしかしながら南無阿弥陀仏の六字のころなり。このゆゑに一切の聖教といふも、ただ南無阿弥陀仏の六字を信ぜしめんがためなりといふころなりとおもふべきものなり。あなかしこ、あなかしこ

たすけますという事が 本当にわからない

浄土真宗の教えとは阿弥陀如来様のお救いを信じ南無阿弥陀仏と念仏申す生活をする教えですが、ただこの私を阿弥陀如来様が

けなのでしようか。はてさて…

阿弥陀如来様の救いがピンとこないということは自分が阿弥陀如来様に救ってもらわなくてはならない身であるという事に頷うなづけていないからなのでしょうね。

仏様の救い以前に誰かのお世話になるという事があまり好きでないし、自分ひとりでなんとかやっていけると思ってしまうという自分があるからなのでしょうね。お金さえあれば何でも買えますし、何でも済んでしまうのがこの世の中ですもんね。誰かに助けてもらわないとやっていけないなんてあんまり感じられないかもしれません。

念仏を大切にされてきた先輩方は「おかげさま」と思いながら生活をしてそしてそのなかでお念仏を称えてこられたように思います。また、自分を信じて、自分の価値観だけを信じて生きていっても本当に幸せになれるのでしょうか。私

はなんとなくですが、そう

ではないような気がしています。何か大きな誤解をして生活をしているのが私たちなのかも知れません。

阿弥陀如来様が私を救ってくださるのだと狂信的に信じていく前に阿弥陀如来様の救いがなぜ今まで残ってきたのかという事を私ごととして、私を見つめ直す事をおして訪ねていく事も大切なのではないのでしょうか。



【あとがき】 ♠ 久々にあとがきを書いていような気がします。桜の花が咲きそめていつの間にか梨の花も咲き散ってしまってます。気がつけばもうこんな季節になってしまってます。今年年始めに能登半島地震があり、そして被災地をみてきて、これどうなるんだおるかと思つたらいつの間にかこんな日に経ってしまったって感じます。自分も能登も何にも変わってないです。あのとを置き去りにされたまま月日だけは待ったなしで進んでいってしまったます。◎当寺の祠堂経会が気づけばそこまでやってきてしまつてます。ただただやり過ぎすのではなく、しっかりと祠堂経会に出会つていかなくてはとは思っています。そのためにこれからぼちぼちと準備に入らせていただきます。よかつたらご協力ください

発行 真宗大谷派 常入寺
電話 930-0161 富山市東老田787
住職携帯 (076) 436-0816
発行責任 青井 和成
090-3764-3983

LINEはこちらから
お参りの変更
法事の相談
その他
こちらからでもできます